



日々好日は信心から

### 日々好日

六七七

(令和七年七月発行)

青葉薫る五月廿三日、錦帯橋河畔のホテルで昭和31年灘中卒業の同窓会に三十人が出席し開催された。灘小三年までの同期で、灘中の卒業生でない私にも声かけをしていただいて、十数年前の古希を迎えた時以来の二度目の出席でした。

先立たれた人への黙禱に続いて幹事の挨拶ではじまりましたが、会費も以前の半額、飲酒して極楽蜻蛉を演ずる者もなく、年を重ねて人間の熟度も増し誰をもいたわり気遣う者たちの集いで和気藹々の三時間であった。

その中で気になったのは「今生最後」という文言が幾度も聞かれたことであった。何事も「一期一会」の覚悟は必要なものの、死を意識した高齢者の集いであることを実感したことでした。

そこで、灘中の卒業生でもない私に二度までもお誘いをして頂いたことへの感謝を込めて最後に一言述べさせていたいただきました。

それは、然る大学の女の学長(名を失念)さんの言葉を引用させて頂き、年寄りには教育と教養が大事だという言葉遊びで、「今日行く」と「今日する用」があれば心身の健康が保たれる。同窓会を開催し行くところを与えて下さったお礼と、「子育てを終えての気楽な下り坂の人生を、時にブレーキをかけながら元気で再会を致しましょう」と締め括りました。

#### 弘法大師のお言葉

「始めを合よくし終を淑よくするは君子の人なり」  
(性霊集卷十)



仏法  
非遥

真如  
非外

心中  
即近

棄身  
何求

日々好日





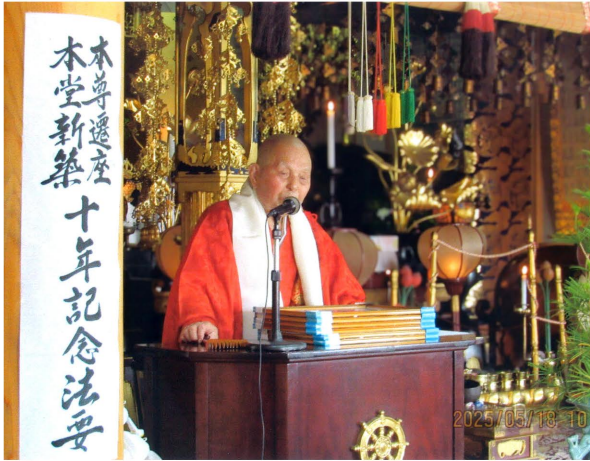
い起こし、遍路巡礼をされてない方は實際のお札所を参拝する気持ちになっただくべく、内陣には御納経軸と本尊御影軸を奉掲し、脇間には八祖大師と大日如来の軸を掛けて平素とは違う堂内をゆつくりと参拝していただきます。

護摩修法を終えて、責任役員・総代さんに感謝状贈呈を行いました。小なりともお寺の移転ともなれば予想以上の経費もかかり、住職とは違った意味で大変なご心労をお掛けし、加えて卒先しての多額の浄財喜捨で、当山にとっては畢生の大事業を無魔成就に導いていただいたことへの感謝で、気の利いた記念品のひとつとてないものでしたが、喜んでいただけただけで肩の荷を一つ降ろしたような気持ちです。

檀信徒の方々、お一人お一人にも感謝状を差し上げたい気持ちはあるものの、住職のこうした意を汲み取って頂き、ただただ頭を垂れるのみでしたが、以前の寺とは何から何まで充実した寺院となり檀信徒の方々にも移転事業の完遂を喜んで頂くことができ安堵しています。

ただ一つ申し訳なく思うのは、檀信徒の多くの居住地域から遠く離れたということですが、これを帳消しにする魅力ある寺でありたいと日々心掛けています。

この法要も終わり近くになってなんとなく堂内の雰囲気気が当初と違うことに気付きましたが、それが何である



かは法要の終了まで分かりませんでした。それは高野山三宝院さまからの胡蝶蘭の大きな祝花が内陣丸柱と説教台の間に置かれていたのです。法要が始まった直後に配送され、荷造りを解いて本堂に運んだものの法要が始まっており、しかも大きな供花なので置く場所も定まらなかったのですが、結果として良い所であった。



感謝状贈呈の際、目立つところであったということでした。記念法要を記念法要たらしめていただいた祝花であった。落慶法要をおもおこす供花でした。

説教台の反対側には新芽を大きくのぼした高野槇がそれも不釣り合いの花瓶に立てられていました。高野槇は高野山をおもいおこす特別な供花で、総代でもあられる三代博幸・一代ご夫妻のお計らいで年中行事にもお供えいただいています。

この記念法要に際し数多の方々様が様々な方々がお力添えをいただいています。有難いことその法幸をかみしめています。そしてそれはこれから何ものにも代えがたい励みともなります。



当初は移転後三年もすれば本堂も境内も整い、移転三年の法要を営むことが出来るであろうと高を括っていましたが、それは早々に諦めなくてはなりませんでした。それは宗教法人設立は土地を取得して寺に寄付すれば容易に出来ることだとおもっていましたがそれは大きな誤りだったのです。

平成七年のオーム真理教による世間を震撼させたサリン事件以来、法人設立の要件が厳しくなっていたのです。司法書士の手をわずらわせての対応も実を結ばず、八方手を尽くして、浦井弘子行政書士に巡り会うことができたのでした。四年もの歳月を経て法人設立がなったのですが、それは想像以上の難関であった。

人口減少で法人格返上が関心をあつめる時に、新な宗教法人の申請はお役人には奇異な目で見られ、行政書士の手を必要以上に煩わせることになったのだと思つていきます。

世間の神社佛閣に遅れること数十年。龍門寺という寺の特異な歴史を思わないではありません。法人設立がなれば、墓仕舞いに伴う永代納骨の認可にも手を貸していただき、更に時代に即応してインターネット上にホームページを開設しその運用維持にまで心を配っていただきました。この寺報も

そのホームページでみていただけます。カラーでより美しいものになっています。その浦井さんの姿も堂内に確認し、娘さんには法要の写真撮影して頂き有難いことでした。



これまでも幾多の法要を営んでまいりましたが、その都度粗品ながらも記念品を用意しましたが、今回はそうしたことは為さず、この法要の内容をおもいおこしていただくもの、銭金で買えないものをもって記念品にかえさせていただいたことでした。

その代わりと言ったら怒られますが、これまでの法要の記念品の残品を寺の断捨離に協力して下さいとお断りをして貰っていただきました。

最後に総代さんと記念撮影をして法要を終えました。天候にも恵まれて営むことが出来て仕合せでしたが、何よりも、住職の感謝の気持ちを参詣者に告げそれを受け止めていただくことができたことを喜びたい。

これから先きの十年は望むべきもありませんが、一日一日を檀信徒の思いの程を汲み上げて共に生きていきたい。

定年の無い住職という職業は因果な職種である。しかし、他では味わうことの出来ない底の知れないところがあります。

仏の手の掌で存分に戯れたいものだ。





## あとがき

五月末から玄関前など随所で未央柳が黄色い花を咲かせ存在感をしめしています。紫陽花も様々な色や形状の花を咲かせ鬱陶しい梅雨の季節を彩っています。

稲田は田植えを終えて瑞々しい田園風景が広がっています。日本社会は令和の米騒動、世界は米国の大統領の関税騒動。何れも誰もが納得する落としどころはなく、誰かが我慢を強いられることになるのでしょうか。

米を買ったことのないのは失言更迭の大臣だけではないような記事もちらほら。小泉新農相、父親の郵政改革のような、大胆な農政改革を断行して米の安定価格を齎すことが出来るのでしょうか。日本人の主食のこともあり、期待をこめて見守りたい。同じ党内にもそれを快しとしない輩の存在も明らかですが…。

移転十年の記念法要を終えた今思うことは、無謀とも思える大それたことを為し終えたことの安心感というより、それに協力していただいた無慮多数の方々の方が存在があつたことを喜びたい。

これからはそうした方々と共に生きていきたい。老いさらばえて朽ち果てるまで檀信徒の安寧を祈りつづける覚悟はできています。

梅雨の豪雨への備えと、その後の猛暑の日々を元気に過したいものである。

発行者

高野山真言宗

寶池山

龍門寺

吉岡光昭

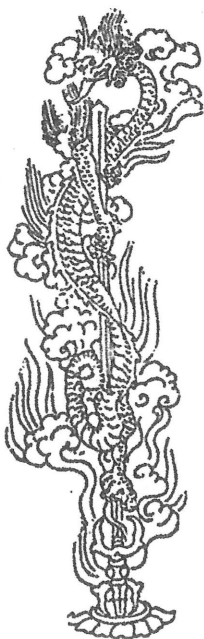


煩惱具足の我らをば

俱利伽羅龍劍携えて

護り導く忿怒のほとけ

不動明王



岩国市通津3634番地3 〒740-0044

高野山真言宗

寶池山龍門寺 発行

電話 岩国(0827)38-4611